

## 平成23年（第5回）みどりの学術賞受賞者

た ばた さだ とし  
田 畑 貞 壽（80歳） 千葉大学名誉教授

## （功績概要）

造園学・環境計画学の分野において、一定の地域内にある樹林、草地、水辺、農地などのみどりで覆われた土地を「緑被地」、その割合を「緑被地率」という新たな概念と指標を用いて、地域環境におけるみどりの多面的機能の数量的検証と地域の緑被地構造解析を行い、多様な緑被空間の多面的機能の組合せによる「グリーン・マトリックス システム」とよぶ独自の緑地環境計画手法を提案し、日本各地の緑地計画や自然環境保全計画として汎用され、みどりの都市づくりなどを推進するとともに、日本の自然保護運動を支え、斯学の発展に大きく貢献した。

さ とう きみ ゆき  
佐 藤 公 行（75歳） 岡山大学名誉教授

## （功績概要）

植物生理学の分野において、植物の光合成の過程で起きる光化学反応は葉緑体のチラコイド膜の中で行われるが、その最初の反応である水を分解して酸素とプロトンをつくる反応の場である光化学系Ⅱ複合体を、その活性を保持したまま高純度に精製することに世界に先駆けて成功するとともに、この複合体の全体像を初めて明らかにした。これら一連の研究成果は極めて高く評価され、その後の光化学系、ひいては光合成研究の発展に大きく寄与した。

（年齢は平成23年4月22日現在）